

アカデミック・リテラシーの教育効果の検討 －アンケート調査結果からの考察－

相澤 文恵¹⁾, 藤澤 美穂¹⁾, 平林 香織²⁾

(受理 2015年8月24日)

キーワード：初年次教育、アカデミック・リテラシー、ビブリオバトル

I. 緒 言

従来、大学教育においてもっとも広く用いられてきた学習方略は講義である。講義は一度に多数の学習者を対象として知識を伝えることが可能であるが、ほとんどの場合は教員から学生への一方通行となり、学生は受動的になるという欠点がある。学ぶべき情報量が加速度的に増加している今日、学生が基本を身につけ、それを応用して、問題を解決する力を養えるような学習方略が必要となってきた。そのような中で、近年、初年次教育への関心が急速に高まり、全国大学の普及率は2007年で97%近くにもほっている¹⁾。初年次教育におけるカリキュラムの中で、学生自らが学ぶ姿勢を重視した学習方略としてはKJ法、ディベート、問題解決型学習（以下PBL）などの小グループ学習が評価されている。PBLは、認知心理学を科学的基盤とする教育技法であり²⁾、この教育法を用いることにより、学生は統合された深い知識を理解し習得する能力を獲得し、問題を分析・解決する能力を獲得するとともに、対人関係能力を育成することもできるとされている³⁾。岩手医科大学ではそのようなPBLと並行して、2013年度より全学部学生を対象とした初年次教育にアカデミック・リテラシーを導入した⁴⁾。この科目は全14回からなり、従来型の講義と能動的学修を融合するかたちで行っている。アカデミック・リテラシーでは、大学で授業を受けるにあたって必要な基本的な学修スキル「読む、聴く、書く、伝える」を身につけること、他者との議論を通じた問題探求の手法を習得することを目的としている。

本研究では、アカデミック・リテラシーの全カリキュラムを受けた学生の学修スキルの自己評価をアウトカムとして、この科目の教育効果について検討した。

II. 対象・方法

岩手医科大学1学年生383名（医学部：129名、歯学部：79名、薬学部：175名）を対象として、アカデミック・リテラシーの教育効果に関する質問紙調査を実施した。アカデミック・リテラシーでは医学部・歯学部混成のクラスを2つ、薬学部を2つのクラスに分け、それぞれに対して、全14回（21時間）の講義と演習を実施した。この科目は、大学での学びの基本となる、図書館利用法、文献検索、ノートテイキングやレポートの作成法、クリティカルリーディングなどのスキルに関する講義と、

1) 岩手医科大学 教養教育センター 人間科学科心理学・行動科学分野

2) 岩手医科大学 健康管理センター 人間科学科文学分野

ディベート, ビブリオバトルの能動的学修によって構成されている。本年度のアカデミック・リテラシーのカリキュラムを表1に示す。

アカデミック・リテラシー全体に対する事前アンケート調査は, カリキュラムガイダンス時に1学年生全員に対して実施した。事前アンケートでは, 学生の「読む, 聴く, 書く, 話す」スキルのベースラインデータを得るため, 「意見の主張, 傾聴, 客観的判断, 論理的思考, 多角的な見方, 正確な日本語記述, 他者との協力」, などに関する8項目を自己評価させた(表2)。ついで, 上述項目を含む10項目からなる事後アンケート(表2)を作成し, アカデミック・リテラシーの最終授業時に実施した。それぞれの質問に対する回答肢は, 1. 全くできない, 2. できない, 3. どちらともいえない, 4. できる, 5. よくできる, の5段階の順位尺度とし, 数値データとして分析に供した。

また, 本学のアカデミック・リテラシーにおいて特色あるカリキュラムであるビブリオバトルに関しては, ビブリオバトル決勝後のまとめ講義時(ビブリオ⑤)において別途実施した。アンケートは読書の頻度, 読書ジャンル, ビブリオバトルに用いた本の選定基準, ビブリオバトルの満足度, ビブリオバトルへの取り組み状況, ビブリオバトルの効果などに関する12項目からなる。自己評価に関する質問項目については, それぞれ, 5段階の順位尺度を用い, 最も否定的な回答を1とした数

表1 アカデミック・リテラシーの構成

		医学部・歯学部 クラス1	医学部・歯学部 クラス2		薬学部クラス1	薬学部クラス2
	4/10(金)	カリキュラムガイダンス		4/10(金)	カリキュラムガイダンス	
1	4/13(月)	図書館実習	ビブリオ導入	4/13(月)	図書館実習	ビブリオ導入
2	4/22(水)	ビブリオ導入	図書館実習	4/20(月)	ビブリオ導入	図書館実習
3	5/13(水)	レポート講座	レポート講座	4/27(月)	レポート講座	レポート講座
4	5/20(水)	ビブリオ①		5/ 7(木)	ディベート	ディベート
5	5/20(水)	ビブリオ②		5/11(月)	ディベート	ディベート
6	5/27(水)	ビブリオ③		5/18(月)	ビブリオ①	
7	5/27(水)	ビブリオ④		5/22(金)	ビブリオ②	
8	5/29(金)	ビブリオ決勝		5/25(月)	ビブリオ③	
10	6/ 3(水)	ビブリオ⑤	ビブリオ⑤	5/26(火)	ビブリオ④	
11	6/10(水)	ディベート	ディベート	5/29(金)	ビブリオ決勝	
12	6/17(水)	ディベート	ディベート	6/ 1(月)	ビブリオ⑤	ビブリオ⑤
13	6/24(水)	ロジカル・リテラシー	ロジカル・リテラシー	6/ 4(木)	ロジカル・リテラシー	ロジカル・リテラシー
14	7/ 1(水)	文献検索	論文の技術	6/12(金)	文献検索	論文の技術
14	7/ 8(水)	論文の技術	文献検索	6/19(金)	論文の技術	文献検索

値データとしてその後の分析に用いた。

統計解析にはSPSS 22.0J (IBM) を用いた。

表2 アンケート項目と回答状況

項 目	総数	全く できない	できない	どちらとも いえない	できる	よくできる
【事前アンケート】						
*1. あなたは自分の意見を主張できますか.	364	0	44	132	172	16
2. あなたは自分の感情を表現できますか.	363	0	22	107	214	20
*3. あなたは他の人の話を聴くことができますか.	364	0	4	28	277	55
4. あなたは他の人の気持ちを推測できますか.	364	1	5	114	217	27
*5. あなたは物事を論理的に考えることができますか.	364	3	33	179	135	14
*6. あなたは物事を異なった立場から考察することができますか.	363	1	19	139	184	20
*7. あなた正しい日本語の文章を書くことができますか.	364	2	51	197	110	4
*8. あなたは他の人と協力して仕事に取り組むことができますか.	364	0	4	52	250	58
【事後アンケート】						
*1. あなたは自分の意見を主張できますか.	366	3	19	110	187	47
*2. あなたは他の人の話を聴くことができますか.	366	0	7	32	232	95
3. あなたは自分の意見と他の人の意見の違いを客観的に検討することができますか.	366	0	9	80	228	49
4. あなたは物事を決める時に他の人の意見を冷静に聞くことができますか.	366	0	6	55	240	65
*5. あなたは物事を論理的に考えることができますか.	366	5	25	128	170	38
*6. あなたは物事を異なった立場から考察することができますか.	366	2	17	106	193	48
7. あなたは日本語の文章を適確に要約することができますか.	366	2	45	152	142	25
*8. あなた正しい日本語の文章を書くことができますか.	366	2	32	150	153	29
*9. あなたは他の人と協力して仕事に取り組むことができますか.	366	3	7	48	225	83
10. あなたは他の人の話を聞くとときに、事実と推測に区別することができますか.	365	4	7	101	212	41

* 事前・事後で同一の項目

Ⅲ. 結 果

1. 学修スキルの自己評価に関するアンケート調査結果

初年次学生の学修スキルの自己評価に関する事前・事後アンケートの項目を回答結果とともに表2に示す。総数は欠損値（未回答）を除外している。アンケート項目のうち、アスタリスクを付した6項目に関しては、事前・事後で同一のものとした。回答肢：4.できる, 5.よくできる, を肯定的として評価として、アカデミック・リテラシーの事前・事後の変化を観察したところ、「意見の主張」に関しては、事前では51.6%が出来ると回答し、事後では63.9%に増加していた。「論理的思考」では40.9%から55.8%に、「多角的な見方」は56.2%から65.8%に、「正しい日本語記述」では31.3%から49.7%に、肯定的な回答が増加した。 χ^2 検定を用いて比率の差の検定を行ったところ、上記の項目においてはすべて有意な差が認められた ($p < 0.01$)。一方、「傾聴」は91.2%から89.3%に、「他者との協力」は84.6%から84.2%とほとんど変化がなく、有意差も認められなかった。さらに、この変化を学生の自己評価得点を用いて検討するため、全学生の事前・事後アンケートに対する回答を数値化し、対応のあるt-検定を用いて平均値の差を分析した。分析可能な対象者総数は354名であった。分析の結果、「意見の主張 ($p < 0.01$)、論理的思考 ($p < 0.01$)、多角的な見方 ($p < 0.01$)、正しい日本語記述 ($p < 0.01$)」の4項目についての自己評価が事後で有意に高いことが認められた(表3)。

ついで、医・歯・薬の学部による学生の自己評価の差を検討するため、事前・事後の2時点において、学部ごとに学生の自己評価得点の平均値を算出し、一元配置分散分析および多重比較検定(Bonferoni法)を用いて3学部間の平均値の差の検定を行った。分析可能な対象者総数は医学部：123名、歯学部：75名、薬学部：156名であった。事前アンケートの分析結果を図1に示す。「意見の主張 ($p < 0.01$)、傾聴 ($p < 0.01$)、論理的思考 ($p < 0.01$)」の3項目で学部間に差が認められた。多重比較検定の結果、「意見の主張」では、医・歯学部間 ($p < 0.024$)と医・薬学部間 ($p < 0.000$)で差が認められ、医学部学生の自己評価が高いことが認められた。「傾聴」では、医・薬学部間 ($p < 0.026$)と歯・薬学部間 ($p < 0.027$)で差が認められ、薬学部学生の自己評価が低いことが認められた。「論理的思考」では、医・薬学部間 ($p < 0.002$)と歯・薬学部間 ($p < 0.009$)で差が認められ、

表3 アカデミック・リテラシー事前・事後の学生の自己評価得点

項 目	平均値 ± 標準偏差		t 値	有意確率 (両側)
	事 前	事 後		
意見の主張	3.44 ± .766	3.70 ± .797	-5.339	.000
傾聴	4.05 ± .521	4.12 ± .635	-1.875	.062
論理的思考	3.33 ± .735	3.58 ± .822	-5.105	.000
多角的な見方	3.56 ± .709	3.74 ± .764	-3.872	.000
正しい日本語記述	3.17 ± .695	3.48 ± .790	-6.236	.000
他者との協力	4.00 ± .593	4.02 ± .718	-0.529	.597

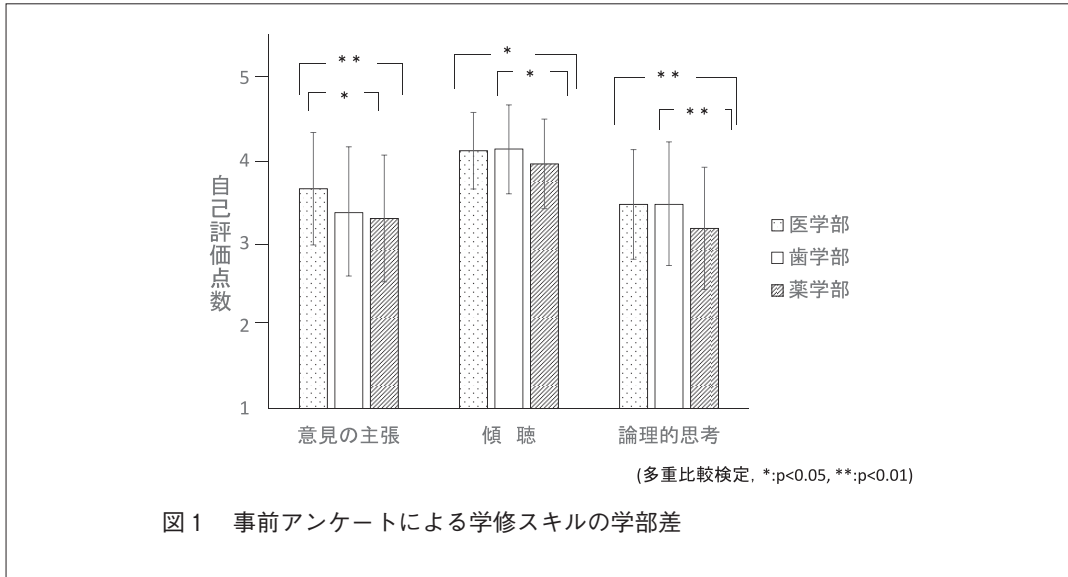


図1 事前アンケートによる学修スキルの学部差

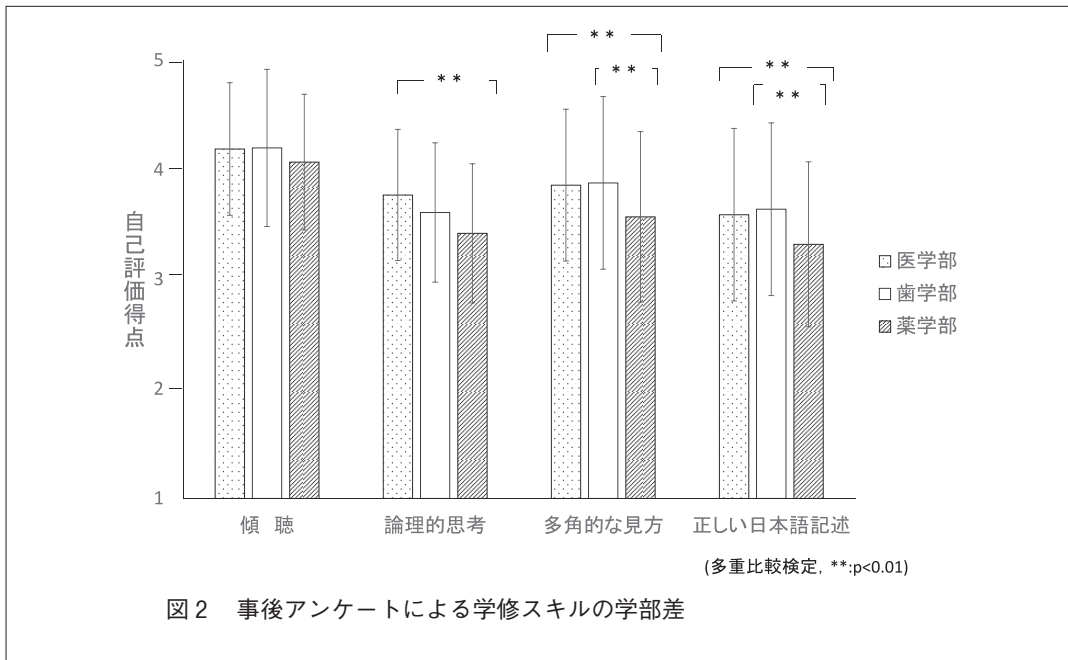


図2 事後アンケートによる学修スキルの学部差

薬学部学生の自己評価が低いことが認められた。一方、事後アンケートにおいては、「傾聴 ($p < 0.05$)、論理的思考 ($p < 0.01$)、多角的な見方 ($p < 0.01$)、正しい日本語記述 ($p < 0.01$)」の3項目において学部間に有意差が認められた。図2に示すように、「論理的思考、多角的な見方」では医・薬学部間で医学部学生の自己評価が高かった ($p < 0.001$, $p < 0.004$)。「多角的な見方」では歯・薬学部間でも差が認められ、歯学部学生の自己評価が高かった ($p < 0.01$)。「正しい日本語記述」に関

表4 学部別にみた事前・事後の自己評価得点

学部	項目	平均値 ± 標準偏差		t 値	有意確率 (両側)
		事前	事後		
医学部	意見の主張	3.67 ± .686	3.85 ± .709	-2.805	.006
	傾聴	4.11 ± .465	4.19 ± .605	-1.317	.190
	論理的思考	3.46 ± .668	3.77 ± .722	-4.908	.000
	多角的な見方	3.58 ± .713	3.86 ± .693	-3.694	.000
	正しい日本語記述	3.08 ± .673	3.59 ± .788	-6.446	.000
	他者との協力	4.11 ± .576	4.08 ± .648	.515	.608
歯学部	意見の主張	3.37 ± .802	3.68 ± .947	-3.111	.003
	傾聴	4.15 ± .538	4.20 ± .717	-0.728	.469
	論理的思考	3.48 ± .760	3.61 ± .868	-1.558	.124
	多角的な見方	3.69 ± .677	3.88 ± .788	-2.338	.022
	正しい日本語記述	3.39 ± .676	3.64 ± .799	-3.054	.003
	他者との協力	4.03 ± .592	4.03 ± .636	0.000	1.000
薬学部	意見の主張	3.29 ± .771	3.59 ± .769	-3.484	.001
	傾聴	3.96 ± .0543	4.04 ± .610	-1.190	.236
	論理的思考	3.17 ± .743	3.41 ± .841	-2.787	.006
	多角的な見方	3.47 ± .713	3.58 ± .779	-1.284	.201
	正しい日本語記述	3.14 ± .704	3.31 ± .759	-2.064	.041
	他者との協力	3.90 ± .592	3.97 ± .803	-1.000	.319

しては、医・薬学部間と歯・薬学部間で有意差が認められ、薬学部学生の自己評価が低かった ($p < 0.01$, $p < 0.01$)。なお、傾聴に関しては多重比較検定での差は認められなかった。

学修スキルの自己評価が学部によって異なったことから、学部ごとに事前・事後の学生の自己評価の

表5 ビブリオバトルに関するアンケート項目と回答状況（7項目を抜粋）

項 目	総数	医学部	歯学部	薬学部
1. ビブリオバトル全体への満足度について、自分にもっとも近いものを1つ選んでください。				
大いに満足した	50	16	11	23
満足した	157	57	27	73
ふつう	114	37	25	52
やや不満足	18	6	3	9
大いに不満足	6	4	1	1
2. ビブリオバトルでの本のプレゼンテーションで、自分にもっとも近いものを1つ選んでください。				
十分準備をして臨んだ	49	16	15	18
まあまあ準備をして臨んだ	148	48	23	77
少し準備をして臨んだ	95	38	19	38
あまり準備をしなかった	36	12	7	16
ほとんど準備をしなかった	17	6	2	9
3. ビブリオバトルでのジャッジについて、自分にもっとも近いものを1つ選んでください。				
積極的に考え参加した	161	53	30	78
まあまあ積極的に参加した	105	40	17	48
ふつう程度に参加した	70	25	17	28
どちらかといえば消極的な参加だった	6	0	2	4
とても消極的な参加だった	2	2	0	0
4. ビブリオバトルについて、またやってみたいですか。				
ぜひまたやってみたい	44	18	10	16
機会があればやってみたい	138	46	26	66
ふつう/どちらともいえない	101	34	19	48
あまりやりたくない	34	11	6	17
やりたくない	27	11	5	11
5. ビブリオバトルによって、より良い本を探したいと思うようになりましたか。				
とてもそう思う	104	34	27	43
そう思う	166	59	26	81
どちらともいえない	53	18	10	25
そう思わない	13	6	1	6
まったくそう思わない	7	3	1	3
6. ビブリオバトルによって、物事を異なった立場で見ることができるようになったと思いますか。				
とてもそう思う	79	28	20	31
そう思う	174	55	34	85
どちらともいえない	85	28	10	47
そう思わない	9	6	1	2
まったくそう思わない	4	3	0	14
7. あなたが自分の考えを他人に伝える力は次の数字のどこにあてはまると思われますか。				
1	20	4	3	13
2	80	21	13	46
3	154	58	29	67
4	85	29	17	39
5	12	8	3	1

変化を対応のあるt-検定を用いて分析した(表4)。その結果, 医学部では, 「意見の主張 ($p<0.01$), 論理的思考 ($p<0.01$), 多角的な見方 ($p<0.01$), 正しい日本語記述 ($p<0.01$)」に, 歯学部では, 「意見の主張 ($p<0.01$), 多角的な見方 ($p<0.05$), 正しい日本語記述 ($p<0.01$)」に, 薬学部では「意見の主張 ($p<0.01$), 論理的思考 ($p<0.01$), 正しい日本語記述 ($p<0.05$)」に差が認められた。

有意差が認められた項目は学部によって異なるが, 3学部とも事後において学修スキルの自己評価が有意に高いことが認められた。

2. ビブリオバトルに関するアンケート調査結果

本分析ではビブリオバトルに関するアンケート調査項目の中からビブリオバトルへの取り組み状況等に関する自己評価7項目を抽出し, 分析に用いた。回答結果を学部別に表5に示す。

表6 ビブリオバトルに関するアンケート項目の相互関連

項目	ジャッジへの参加	ビブリオの満足度	プレゼンの準備	再挑戦意欲	より良い本の探求	多角的思考	伝達力
ジャッジへの参加	1	.315**	.457**	.326**	.292**	.155**	.094
ビブリオの満足度		1	.316**	.459**	.355**	.214**	.080
プレゼンの準備			1	.379**	.229**	.148**	.037
再挑戦意欲				1	.477**	.212**	.093
より良い本の探求					1	.370**	.062
多角的思考						1	.093
伝達力							1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)

表7 ビブリオバトルへの準備状況と学修スキルの自己評価の関連

項目	平均値 ± 標準偏差		t 値	有意確率(両側)
	不十分	十分		
意見の主張	3.65 ± .765	3.74 ± .786	-1.044	.297
傾聴	4.16 ± .658	4.10 ± .611	.758	.449
論理的思考	3.50 ± .771	3.62 ± .844	-1.334	.183
多角的な見方	3.70 ± .725	3.75 ± .771	-0.545	.586
正しい日本語記述	3.49 ± .743	3.43 ± .806	.713	.477
他者との協力	4.02 ± .712	4.02 ± .748	.008	.994

はじめに、学部ごとに各項目の自己評価の平均値を算出し、一元配置分散分析および多重比較検定を用いて学部間の平均値の差の検定を行った。その結果、満足度 (Q1)、準備状況 (Q2)、ジャッジへの積極的取り組み (Q3)、再挑戦意欲 (Q4)、より良い本の探求意欲 (Q5)、多角的思考の

表8 学部別にみたビブリオバトルへの準備状況と学修スキルの自己評価の関連

学部	項目	平均値 ± 標準偏差		t 値	有意確率 (両側)
		不十分	十分		
医学部	意見の主張	3.64 ± .736	4.00 ± .627	-2.820	.006
	傾聴	4.15 ± .662	4.16 ± .549	-0.092	.927
	論理的思考	3.58 ± .719	3.87 ± .689	-2.175	.032
	多角的な見方	3.74 ± .655	3.92 ± .660	-1.491	.139
	正しい日本語記述	3.43 ± .747	3.61 ± .754	-1.274	.205
	他者との協力	3.94 ± .691	4.16 ± .606	-1.802	.074
歯学部	意見の主張	3.75 ± .752	3.68 ± 1.068	.279	.781
	傾聴	4.18 ± .670	4.29 ± .732	-0.630	.531
	論理的思考	3.61 ± .629	3.66 ± 1.021	-0.232	.817
	多角的な見方	3.79 ± .686	3.95 ± .868	-0.815	.418
	正しい日本語記述	3.61 ± .629	3.66 ± .938	-0.248	.805
	他者との協力	3.89 ± .629	4.16 ± .679	-1.617	.111
薬学部	意見の主張	3.62 ± .804	3.60 ± .708	.169	.866
	傾聴	4.15 ± .659	3.99 ± .577	1.593	.113
	論理的思考	3.38 ± .865	3.45 ± .825	-0.457	.648
	多角的な見方	3.63 ± .802	3.55 ± .757	.626	.532
	正しい日本語記述	3.48 ± .792	3.21 ± .731	2.168	.032
	他者との協力	4.15 ± .755	3.87 ± .833	2.091	.038

表9 ビブリオバトルへの積極的参加と学修スキルの自己評価の関連

項目	平均値 ± 標準偏差		t 値	有意確率 (両側)
	積極的でない	積極的		
意見の主張	3.62 ± .783	3.80 ± .761	-2.223	.027
傾聴	4.07 ± .654	4.19 ± .599	-1.775	.077
論理的思考	3.54 ± .812	3.614 ± .820	-0.731	.466
多角的な見方	3.63 ± .735	3.84 ± .756	-2.485	.013
正しい日本語記述	3.42 ± .766	3.49 ± .796	-0.745	.457
他者との協力	3.95 ± .786	4.10 ± .697	-1.907	.057

取得 (Q6) には学部間の回答に有意差は認められなかった。一方、伝達能力 (Q7) には差が認められ ($p < 0.01$)、医学部の得点が薬学部より高かった ($p < 0.01$)。

ついで、Pearsonの相関係数を用いて相関分析を行い、ビブリオバトルに関する質問項目間の相互関係を検討した。その結果、表6に示すように、ジャッジへの積極的参加は、プレゼンの準備状況 ($r = 0.457^{**}$)、満足度 ($r = 0.315^{**}$)、再挑戦意欲 ($r = 0.326^{**}$)、より良い本の探求意欲 ($r = 0.297^{**}$)、多角的思考の取得 ($r = 0.155^{**}$) と有意な正の相関を示した。また、ビブリオバトルの満足度は再挑戦意欲 ($r = 0.459^{**}$)、より良い本の探求意欲 ($r = 0.355^{**}$) と関連し、さらに、より良い本の探求意欲は多角的思考力の取得と関連した ($r = 0.370^{**}$)。

3. ビブリオバトルへの参加状況とアカデミック・リテラシー終了後の学生の学修スキルの自己評価の関連性

ビブリオバトルへの参加状況を評価する指標として、「準備状況」と「ジャッジへの積極的取り組み」の2つを取り上げ、学修スキルの自己評価との関わりを分析した。はじめに、ビブリオバトルの準備状況に関して回答者を「十分」(回答肢:十分準備した, まあまあ準備した)と「不十分」(回答肢:少し準備をして臨んだ, あまり準備をしなかった, ほとんど準備をしなかった)の2群に分類し、それぞれの群の学修スキルの自己評価を比較した。「十分」は194名(医学部:62名, 歯学部38名, 薬学部:94名)、「不十分」は141名(医学部:53名, 歯学部28名, 薬学部:60名)であった。分析の結果、全学生を対象とした分析では有意差が認められた項目はなかった(表7)。学部ごとに見ると、医学部では、十分に準備した者の「意見の主張 ($p < 0.01$)、論理的思考 ($p < 0.05$)」の自己評価が、薬学部では、「正しい日本語の記述 ($p < 0.05$)、他者との協力 ($p < 0.05$)」の自己評価が高かった。歯学部で有意差が認められた項目はなかった(表8)。

同様に、ビブリオバトルでのジャッジへの取り組み程度を「積極的」(回答肢:積極的に考え参加した)と「積極的でない」(回答肢:まあまあ積極的に参加した, ふつう程度に参加した, どちらかといえば消極的な参加だった, とても消極的な参加だった)の2群に分け、それぞれの群の事後アンケートによる学修スキルの自己評価の差を検討した。「積極的」は158名(医学部:51名, 歯学部

表10 学部別にみたビブリオバトルへの積極的参加と学修スキルの自己評価の関連

学部	項目	平均値 ± 標準偏差		t 値	有意確率 (両側)
		積極的でない	積極的		
医学部	意見の主張	3.69 ± .753	4.02 ± .583	-2.590	.011
	傾聴	4.08 ± .572	4.25 ± .627	-1.577	.118
	論理的思考	3.70 ± .609	3.78 ± .832	-0.604	.547
	多角的な見方	3.72 ± .629	3.98 ± .678	-2.141	.034
	正しい日本語記述	3.50 ± .713	3.57 ± .806	-0.484	.629
	他者との協力	3.88 ± .678	4.29 ± .540	-3.595	.000
歯学部	意見の主張	3.58 ± .841	3.87 ± 1.042	-1.223	.226
	傾聴	4.14 ± .683	4.37 ± .718	-1.318	.192
	論理的思考	3.47 ± .845	3.83 ± .874	-1.702	.094
	多角的な見方	3.69 ± .786	4.10 ± .759	-2.120	.038
	正しい日本語記述	3.53 ± .736	3.77 ± .898	-1.188	.239
	他者との協力	3.97 ± .654	4.13 ± .681	-0.978	.332
薬学部	意見の主張	3.57 ± .785	3.64 ± .705	-0.540	.590
	傾聴	4.03 ± .707	4.08 ± .507	-0.524	.601
	論理的思考	3.44 ± .925	3.40 ± .748	.287	.774
	多角的な見方	3.53 ± .788	3.64 ± .759	-0.833	.406
	正しい日本語記述	3.31 ± .815	3.32 ± .715	-0.105	.916
	他者との協力	4.00 ± .856	3.96 ± .768	.297	.767

30名、薬学部：77名), 「積極的でない」は177名(医学部：64名、歯学部36名、薬学部：77名)であった。分析の結果、表9に示すように、「意見の主張 ($p < 0.05$) と多角的な見方 ($p < 0.05$)」に有意差が認められ、ビブリオバトルに積極的に参加した者は、意見を主張するスキルと物事を多角

的に見るスキルに関する自己評価が高かった。学部ごとに見ると、医学部では、積極的に参加した者の「意見の主張 ($p<0.05$)、多角的な見方 ($p<0.05$)、他者との協力 ($p<0.01$)」の自己評価が高かった。また、歯学部では「多角的な見方 ($p<0.05$)」の自己評価が高かった。薬学部で有意差が認められた項目はなかった(表10)。

IV. 考 察

近年、我が国において導入されようになった初年次教育では、大学での学問に関わるアカデミック・リテラシーとして、読解、討論、発表、ライティング、批判的思考のスキルをとりあげ、その育成を目標としている⁵⁾。本分析ではそれらのスキルに関する自己評価をもとに、本学におけるアカデミック・リテラシーの教育効果を検討した。その結果、全学生を対象とした分析では、その中の基礎的な学修スキルである4項目「意見の主張、論理的思考、多角的な見方、正しい日本語記述」に関する学生の自己評価がアカデミック・リテラシー後に有意に向上したことが認められた。医・歯・薬3学部からなる本校の特性を鑑み、学部ごとに分析したところ、「意見の主張、多角的な見方、正しい日本語記述」の3項目に関しては3学部共通に有意な変化が認められ、「論理的思考」に関しては医学部においてのみ有意な変化が認められた。「聴く」、「他者との協力」に関しては全学生を対象とした分析でも、学部ごとの分析でも差が認められなかった。両項目とも事前・事後アンケート共に評価得点が高く、高得点に最頻値があり、学生は自分自身を「他者の話を良く聞くことができる、他者とよく協力できる」と評価していたため、変化の幅が小さかったと推測された。ついで、学部間で学修スキルの自己評価に差が認められるか否かを、事前・事後の2時点においてそれぞれ検討した。その結果、それぞれのスキルの自己評価は、医学部が最も高く、ついで歯学部、薬学部の順となった。学部によって学修スキルの自己評価は異なったが、3学部とも事後において学修基礎スキルの自己評価が高かったことは、基礎学力の高低に関わらず、アカデミック・リテラシーによって学修スキルが向上する可能性が示されたものと考えられる。

我々は、学生の学修スキルの自己評価を「～出来る」という自己効力感の観点から調査した。自己効力感とは、Banduraによって提唱された概念⁶⁾で、物事を実行できる確信度、自信ということができる。人間の行動を決定する要因としては、先行要因、結果要因、認知的要因の3つが考えられており、自己効力感 は行動の先行要因の主要な要素となっている。人は何か行動を起こそうとする時、その行動を自分が「できそう」であるか否かを瞬時に判断し、そこで、「できそうだ」と判断すれば行動を起こすが、「できない」と判断すれば、なかなか行動には移れない。その意味で、この自己効力感 は行動の先行要因として有効と考えられる。本年度の調査においては、アカデミック・リテラシー前後の学修スキルの客観的評価は実施していない。しかしながら、アカデミック・リテラシーによって、基礎的な学修スキルに関して「～出来る」という評価が向上した。自己効力感 は、自らが努力することによって成功する体験を持つこと、自分と同じように努力している人が成功する姿を見る体験をすることによって向上する。アカデミック・リテラシーにおいて実施しているビブリオバトル、ディベートの能動的学修を経験することによって、学生の自己効力感が高まり、その結果として学修スキルの自己評価得点が向上した可能性も推測される。自己効力感の向上は、今後の学生の学修行動を決定する有力な要因になることが期待される。

本学のアカデミック・リテラシーにおいて特色あるカリキュラムであるビブリオバトルには、①書籍紹介機能、②スピーチ能力向上機能、③良書探索機能、④コミュニティ開発機能、の4つの機能があると考えられている⁷⁾。本分析の結果、これらの機能を持つビブリオバトルへの十分な準備と積極的参加という態度が学生の学修スキルの自己評価と関わり、ビブリオバトルに積極的に参加した学生

は、事後アンケートにおいて「意見の主張、多角的な見方」に関するスキルの自己評価が高いことが認められた。準備状況に関しては、全学生を対象とした分析で有意な差が認められた項目はなかったが、医学部では「意見の主張、論理的思考」の自己評価が、薬学部では、「正しい日本語の記述、他者との協力」に有意差が認められた。このことから、ビブリオバトルによって、学生の自己効力感とコミュニケーションスキルの向上があったことが推測された。

医療者として患者と向き合う時、患者の多様な価値観、考え方を理解する姿勢や医療者自身の考えを患者に理解できるように伝える力はきわめて重要である。近年、青少年の対人関係構築能力やコミュニケーション能力の低下が著しいことが報告されており⁸⁾、医療系大学の学生もその例外ではない。コミュニケーション能力の低下原因については、少子化、核家族化による過保護な生育環境、ネット社会など、コミュニケーション能力を育む環境の減少が考えられる。人と関わる専門職を育てる教育の現場としては、学生のコミュニケーション能力を十分に育成するための環境を整える方略の一つとしてビブリオバトルの応用可能性も期待される。

V. まとめ

学生の学修スキルの自己評価は、断面的にみると学部間で差が認められるものの、縦断的にみると全学部においてアカデミック・リテラシー後で高いことが示され、本科目による基本的学修スキルの養成に関する教育効果が認められた。

VI. 今後の課題

本年における学修スキルの調査では学生の主観的評価のみを用いた。次年度においては、それぞれの学修スキルに関して客観的評価を導入し、本カリキュラムの教育効果を検討していく必要がある。また、カリキュラム全体を検討するため、批判的思考、多角的な考え方を養成するディベートについてもビブリオバトルと同じように調査を実施し、分析を行う必要があると考える。

文 献

1. 山田礼子：大学における初年次教育の展開－アメリカと日本．*Journal of Quality Education*. **2**, 157-174, 2009.
2. Schmidt HG. Foundations of problem-base learning:some explanatory notes. *Med Educ*. **27**, 422-432, 1993.
3. Barrows HS.The essentials of problem-based learning. *J Dent Educ*. **62** : 630-633, 1998.
4. 廣瀬清英, 藤澤美穂, 鈴木春香, 芳賀真理子, 渡辺敦子, 千葉基弘, 館野雅之, 平林香織：ビブリオバトル：アカデミック・リテラシーにおける図書館職員との協働．*岩手医科大学教養教育年報*, **49**, 41-56, 2014.
5. 楠見 孝, 田中優子, 平山るみ：批判的思考力を育成する大学初年時教育の実践と評価, *Cognitive Studies*, **19** (1), 69-82, 2012.
6. Albert Bandura : Self-efficacy. *Psychological Review*, **84**, 191-215, 1977.
7. 谷口忠太：ビブリオバトル．*文春新書*, 2013.
8. 飯塚一裕：大学生のコミュニケーション意識について－テキストマイニングによる分析－, *愛知教育大学研究報告*, **59**, 49-53, 2010.